

グラフで見るごみの量

6年 情報の読み取り 11番

名前

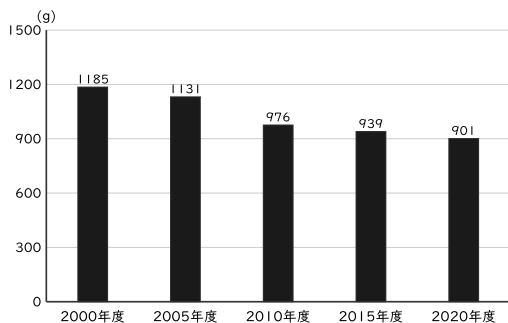
わたしたちは、毎日の生活の中で、たくさんのごみを出しています。日本全体では、一年間に四千万トンをこえるごみが出ています。この量は、増えているのでしょうか。それとも、減っているのでしょうか。こうした数の変化は、文章だけでは分かりにくいものですが、グラフや表にすると、ひと目で分かるようになります。

資料1のグラフは、国民一人が一日に出すごみの量の移り変わりを表しています。二〇〇〇年度にはおよそ千二百グラムありましたが、その後は減り続け、二〇二〇年度にはおよそ九百グラムになりました。二十年間で、およそ四分の一減ったことになりました。

一方、資料2の表は、ごみのうち、資源として再び生かされた割合（リサイクル率）を表しています。二〇〇〇年度から二〇一〇年度にかけて大きくのびましたが、その後は、ほぼ横ばいのままです。

つまり、ごみを減らす取り組みは着実に成果を上げてきた一方で、リサイクルには、まだのびる余地が残されているのです。このように、グラフや表を正しく読み取ると、文章だけでは見えない変化や課題をとらえることができます。資料を読み取る力は、これからの社会で、ますます大切になっていくでしょう。

資料1 国民一人が一日に出すごみの量



環境省の資料をもとに作成。

資料2 リサイクル率の移り変わり

年度	2000年度	2010年度	2020年度
リサイクル率	14%	21%	20%

リサイクル率=ごみ全体のうち、資源として再び生かされた割合。

(1) この文章で、筆者がいちばん伝えたいことは、どれですか。一つ選びましょう。

ア 日本のごみの量は、世界でいちばん多いということ。

イ 資料を読み取る力が、これからますます大切になるということ。

ウ リサイクル率は、これ以上のばすことができないということ。

エ 文章を読むときは、数字を気にしなくてよいということ。

(2) 資料1のグラフを見て答えましょう。二〇二〇年度に、国民一人が一日に出すごみの量は、およそ何グラムですか。

(3) 資料1のグラフから読み取れることとして、正しいものを一つ選びましょう。

ア ごみの量は、二十年間、増え続けている。

イ ごみの量は、二〇一〇年度がいちばん多い。

ウ ごみの量は、二十年間で、およそ四分の一減った。

エ ごみの量は、二十年間、まったく変わっていない。

(4) 資料2の表から読み取れることとして、正しいものを一つ選びましょう。

ア リサイクル率は、二〇〇〇年度から二〇一〇年度にかけて大きくのびた。

イ リサイクル率は、二〇二〇年度がいちばん高い。

ウ リサイクル率は、年々下がりに続いている。

エ リサイクル率は、五十パーセントをこえている。

(5) 筆者は、二つの資料から、どのようなことが分かるかと述べていますか。「ごみを減らす取り組みは」に続けて、文章の言葉を使って書きましょう。

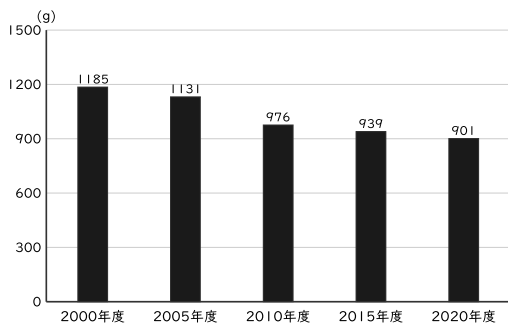
わたしたちは、毎日の生活の中で、たくさんのごみを出しています。日本全体では、一年間に四千万トンをこえるごみが出ています。この量は、増えているのでしょうか。それとも、減っているのでしょうか。こうした数の変化は、文章だけでは分かりにくいものですが、グラフや表にすると、ひと目で分かるようになります。

資料1のグラフは、国民一人が一日に出すごみの量の移り変わりを表しています。二〇〇〇年度にはおよそ千二百グラムありましたが、その後は減り続け、二〇二〇年度にはおよそ九百グラムになりました。二十年間で、およそ四分の一減ったことになりました。

一方、資料2の表は、ごみのうち、資源として再び生かされた割合（リサイクル率）を表しています。二〇〇〇年度から二〇一〇年度にかけて大きくのびましたが、その後は、ほぼ横ばいのままです。

つまり、ごみを減らす取り組みは着実に成果を上げてきた一方で、リサイクルには、まだのびる余地が残されているのです。このように、グラフや表を正しく読み取ると、文章だけでは見えない変化や課題をとらえることができます。資料を読み取る力は、これからの社会で、ますます大切になっていくでしょう。

資料1 国民一人が一日に出すごみの量



環境省の資料をもとに作成。

資料2 リサイクル率の移り変わり

年度	2000年度	2010年度	2020年度
リサイクル率	14%	21%	20%

リサイクル率=ごみ全体のうち、資源として再び生かされた割合。

(1) この文章で、筆者がいちばん伝えたいことは、どれですか。一つ選びましょう。

ア 日本のごみの量は、世界でいちばん多いということ。

イ 資料を読み取る力が、これからますます大切になるということ。

ウ リサイクル率は、これ以上のばすことができないということ。

エ 文章を読むときは、数字を気にしなくてよいということ。

(2) 資料1のグラフを見て答えましょう。二〇二〇年度に、国民一人が一日に出すごみの量は、およそ何グラムですか。

およそ九百グラム(九〇一グラムも正かい)

(3) 資料1のグラフから読み取れることとして、正しいものを一つ選びましょう。

ア ごみの量は、二十年間、増え続けている。

イ ごみの量は、二〇一〇年度がいちばん多い。

ウ ごみの量は、二十年間で、およそ四分の一減った。

エ ごみの量は、二十年間、まったく変わっていない。

(4) 資料2の表から読み取れることとして、正しいものを一つ選びましょう。

ア リサイクル率は、二〇〇〇年度から二〇一〇年度にかけて大きくのびた。

イ リサイクル率は、二〇二〇年度がいちばん高い。

ウ リサイクル率は、年々下がりに続けている。

エ リサイクル率は、五十パーセントをこえている。

(5) 筆者は、二つの資料から、どのようなことが分かるかと述べていますか。「ごみを減らす取り組みは」に続けて、文章の言葉を使って書きましょう。

(例) ごみを減らす取り組みは、着実に成果を上げてきた一方で、リサイクルには、まだのびる余地が残されている(ということ)。

解答・解説 グラフで見るごみの量（6年・情報の読み取り）

問1 イ

最後の段落に「資料を読み取る力は、これからの社会で、ますます大切になっていくでしょう」とあります。これが筆者のいちばん伝えたいこと（要旨）です。

問2 およそ九百グラム（九〇ーグラムも正かい）

資料Iのグラフのいちばん右、二〇二〇年度の棒の高さを読み取ります。本文の二つ目の段落にも「およそ九百グラム」とあります。

問3 ウ

グラフの棒は右にいくほど低くなっているので、ア・エはまちがい。いちばん高いのは二〇〇〇年度なのでイもまちがいです。本文にも「およそ四分の一減った」とあります。

問4 ア

表では、一四％→二一％と大きくのびています。二〇二〇年度は二〇％で、二〇一〇年度（二一％）より低いのでイはまちがい。ウ・エも表と合いません。

問5 （例）ごみを減らす取り組みは、着実に成果を上げてきた一方で、リサイクルには、まだのびる余地が残されている（ということ）。

四つ目の段落の「つまり」に続く一文が、二つの資料から分かることをまとめています。「成果を上げてきた」と「のびる余地が残されている」の両方が書けていれば正かいです。